

富田林市の交流「なかよしまつり」について

富田林市立喜志小学校

芳田 保美

1. はじめに

富田林市の小学校の支援学級児童の交流は、1年に3回あります。

学期ごとに1回ずつあり、1学期は、なかよし遠足です。錦織公園のやんちゃ広場に支援学級の児童が集まり、学校紹介をしてから、広場のいろいろなアスレチックやすべり台などで、一緒に遊びます。お弁当も一緒に食べてから帰ります。

2学期末には、クリスマス会となかよしまつりをしています。市内の16校が半分ずつに分かれて、東部の8校がなかよしまつりで、西部の8校がクリスマス会です。本校は、なかよしまつりの交流で、各校がいろいろなお店屋さんを出して、楽しめます。

3学期は、南河内地区全体の小中学校の作品展を開いています。各校の児童の作品を1人2点ずつ、すばるホールに展示をします。

今回は、なかよしまつりの取組について、くわしく述べたいと思います。

2. なかよしまつりの取組

喜志小学校のひまわり学級（支援学級）では、毎年“ラーメン屋さん”を出しています。数年前に作った、本物のようなラーメン屋の屋台を会場校に運びこみ、本物さながらのラーメン屋さんをしています。

(1)屋台

ラーメン屋の屋台は、当時の校務員さんに協力していただいて、様々なアイデアを出しながら作りました。屋台の真ん中に麺を入れる大きなボールをのせ、横には、トッピングを入れる棚があります。お客さんが食べることができるテーブルも出せるようになっています。屋台の下には、コマがついていて、引っ張って移動することができます。



(2) ラーメン作り

ラーメンの麺は、細く切った紙で作っていて、カップ麺の容器に入れます。シュレッダーでカットした紙も入れているので、ボリュームがでます。トッピングに、画用紙で作ったなるとや卵・のり・ねぎなどをのせると、本物のようなラーメンになります。

わりばしを添えて、作ったラーメンを出すと、注文した子どもたちは、本物のラーメンのようにおいしそうに食べるまねをして満足してくれます。

(3) メニュー

最初のうちのメニューは、ラーメンだけでしたが、年を重ねるごとに、子どもたちと話し合っ、少しずつ新しいメニューを考え出しています。

3年前には、「ラーメンには、ぎょうぎをつけよう。」ということで、画用紙でぎょうぎを作ることにしました。丸く切った画用紙に中身（紙）をつめて半分に折り、ぎょうぎの形にします。焼いたこげ目をクレパスでぬって、焼きぎょうぎができました。ぎょうぎをラーメンのトッピングにもして、ぎょうぎラーメンもメニューに加えました。

2年前の話し合いで、おにぎりとパンを加えました。おにぎりは、発砲スチロールを3角おにぎりの形に切って、黒い画用紙をのりにして貼って作りました。パンの袋には、子ども達に人気のポケモンの絵を貼って、ポケモンパンとして売り、大繁昌でした。

去年は、茶色の色画用紙でくるんで作った唐揚げや、折り紙の景品をつけたお子様セットなどのメニューも新しく増やしました。



ラーメンを作っています。
カップに麺を入れてトッピングを
のせるところです。

(4)役割分担

子どもたちを前半・後半の2つのグループに分け、先にラーメン屋さんをする役か他校の出し物を楽しむのかを決めます。

ラーメン屋さんでは、

受付

ラーメンを入れる

トッピングをのせる

お客さんに出す

片付けをする

の役をはじめに決めておき、順に交代していきます。

受付では、メニューをきいて、ラーメンを作る係に伝えたり、「ラーメンは、いかがですか〜。」「おいしいラーメンですよ〜。」と大きな声を出したりして、他校の子どもたちとのやり取りをがんばります。

ラーメンを作ったり、トッピングをのせたりするのは、とても楽しくて、どんどん進んでできますが、お客さんに出した後のラーメンを片付けるのを面倒がる子どももいるので、きちんと戻せるようがんばってほしいものです。

(5)衣装

いろいろなカラーのビニール袋で、まつりのはっぴを作っています。それぞれの学校で工夫をして、かぶるタイプや前あきタイプの形にして、学級名やカラフルな飾りをつけたりしています。学校ごとに違う色のビニール袋にしているので、お店を回っているときにも、どこにいるのかがわかりやすいという利点もあります。

(6)他校の出し物

魚つり・ボーリング・ビー玉ころがし・ストラックアウト・カラオケ・だんじりなど、工夫された出し物があります。

だんじりは、本当に人が乗ることができ、ひもをひっぱって動かすことができます。地域のだんじり祭りが賑やかで、だんじりが大好きという子どもも多く、このなかよしまつりのだんじりに乗ることを毎年楽しみにしている子どももたくさんいます。



だんじり



ビー玉
ころがし

出し物を楽しむのには、お金のかわりに牛乳キャップを使います。なかよしまつりが近づいてくると、給食の牛乳キャップを集めておいて、各自好きな絵や模様を描いて用意をしています。

3. 終わりに

なかよしまつりに向けて、知的障がい・情緒障がい・肢体不自由の3学級の子ども達が、1週間に1時間全員が集まる“ひまわり会”の時間に話し合っています。

毎年2学期中頃になると、高学年の児童は、今年はどんな工夫をしようかなあと、いろいろなアイデアを出し合ったり、新しいメニューを考えたりして、このなかよしまつりを楽しみにしています。

電車で3駅向こうにある小学校に集合するので、子どもたちは各自、電車賃をサイフに入れて用意し、自分で切符を買って電車に乗って行きます。改札口を通った後も降りるまで切符をなくさないように毎回注意をしているのですが、それでもなくしてしまう子がいました。でも、次からは、なくさないようにたいへん気をつけていたので、いい経験になったと思います。

電車に乗り合わせた小学校の子に話しかけ、なかよしまつりで出会うと楽しくおしゃべりしたり、一緒にお店を回ったりして交流できることもあります。

このなかよしまつりが、市内の交流会のなかでも、いちばん子ども同士がふれあえる交流になっています。